



題字 故前田和二郎名誉教授
発行所 東京都新宿区信濃町 35
慶應義塾大学医学部
外科学教室同窓会 (刀林会)
発行人 吉野肇一

平成 26 年度
刀林会評議員会・総会報告



理事長
吉野 肇一 (44回)



副理事長
熊井 浩一郎 (46回)



副理事長
吉田 一成 (51回)

評議員会

15時より1時間

本評議員会は、会則上、
本会の意思決定機関として
定められており(19条)、
また、総会議決事項の会員
への速やかな通知は理事長
の責務(18条)なので、こ
こに報告等いたします。
標記は、6月21日(土)
午後、梅雨空の曇天のもと、
ホテルオークラ東京で開催
されました。

出席評議員40名(うち書
面出席14名、委任状宛先は
いずれも理事長、詳細は後
述。定足数25)。欠席され
た5名には次回の出席をお
願いします。
会則及び前例に倣い、互
選により議長を理事長、議

長指名による副議長を小平
進(43回、以後、回を略)
とした。
報告・審議案件と結果は
次のとおり
一、平成25年度年間庶務
報告(理事長)
会員数1195名(前
年比+4名)。
物故者11名:水野宏
道(25)、横山宗雄(27)、

堀江茂(28)、池田邦太
郎(30)、大場正巳(38
相)、安田勝(40)、橋
本敏夫(40)、今井達
郎(53)、渡辺良友
(53相当)、雨宮哲(54)
二、北條一宇(47)、二
開業4名:宮崎洋
史(64)、一、今津義
宏(67相、一)、原真一
(62)、小、林俊行(79、脳)
通常理事会3回通常
総会1回の開催
副理事長2名(熊井
浩一郎理事、46 及び
吉田一成理事・教室主
任、59)の指名と承認
二、平成25年度教室年間報
告(吉田教室主任)
教室幹事 長谷川博俊
(66、一)
専修医担当主任 神
野浩光(66、一、総括)、
志水秀行(65、心)河
野光智(72、呼)秋山
武紀(77、脳)星野健
(63、小)
研修医担当主任 八
木洋(77、一、総括)、
志水秀行(65、心)、朝
倉啓介(81、呼)堀口
崇(69、脳)、藤野明浩
(77、小)
教室会議構成員:吉
田一成(51、脳)、黒田
達夫(61、小)、北川雄
光(65、一)、大平貴之
(58、脳)、饗庭了(61、
心)、星野健(61、小)
工藤樹彦(64、心)、志
水秀行(65、心)、神野
浩光(66、一)、戸田正
博(66、脳)、長谷川博
俊(66、一)佐々木光
(69、脳)板野理(71、
一)、尾原秀明(72、一)
竹内裕也(71、一)河
野光智(72、呼)、藤野
明浩(75、小)、渡辺真
純(64、連携教室員)

人事異動及び役職・
職名の変更(H25.4.2
(26.4.1))
一般・消化器外科:76件
心臓血管外科:13件
呼吸器外科:19件
脳神経外科:25件
小児外科:7件
専修医1年目:15名
この他に、最近の
ニュースとして次の4
件が報告された。
浅村尚生(61、国立
がんセンター中央病
院)呼吸器外科教授候
補者
志水秀行(65、塾内・
心臓血管外科)心臓血
管外科教授候補者
池田佳史(67、一)
国際医療福祉大学三田
病院消化器センター長
(教授)
河地茂行(68、一)
東京医大八王子医療セ
ンター教授
学内役職者(H:26.6.1
現在)
名誉教授7名、元教
授3名、教授3名、客
員教授31名、兼任教授
1名、准教授8名、客
員准教授26名、専任講
師16名、客員講師37名、
非常勤講師31名、兼任
講師1名、助教20名、
他2名
三、平成25年度決算(秋山
武紀会計係、77、脳)
当期収入合計、同支
出合計、同差額の順に
記す(単位:万円、千
円以下四捨五入)。
一般会計 545、
438万、107黒字(次
期繰越金2,012)
学会支援準備金 0、
20万、20万赤字(同
418)

刀林基金 0、50、
50赤字(同1,734)
拍手多数で承認、総
会へ上程予定。
四、平成26年度事業計画(熊
井副理事長)
(1) 通常会務:総会、
評議員会、理事会及び
各種委員会の開催
(2) 『刀林』103号、
104号号発行
(3) 刀林賞選考
(4) 慶弔
(5) HP開設
(6) 電子メール・評議
員を主媒体とする連絡
網の作成
(7) 常設委員会の新設
及び変更
(8) 諸規程の整備
五、平成26年度予算(秋山
会計係、標記は前記3)
平成25年度決算に準じ
る)
一般会計 550、5
70、20赤字(次期繰
越金1,992)
学会支援準備金 0、
20、20赤字(同398万)
刀林基金 0、50、
50赤字(同1,684)
一部表現の訂正(前
年度決算、本年度決算
など)のうえ、拍手多
数で承
認、総会へ上程予定。

六、委員会報告と承認
(1) 刀林新聞編集委員会
(小澤壯治委員長60、一)
『刀林』101号、
102号の刊行。
HP小委員会(和田
則仁委員長、74、一)
立ち上げ、HP準備中。
(2) 刀林賞選考委員会(幕
内博康委員長代理:理
事長)
25年度刀林賞授賞論
文5編は、従来どおり、
各診療科より1編ずつ
推薦されたものを、委
員会で審査し、可とし
た。
上記5編について承
認。
内容は次のとおり(回
生順)
① 移植ヒト神経幹細胞は
中脳動脈閉塞モデル
ラットの内在性神経新
生を促進し運動機能を
回復する。
峯 裕(75、脳)
② ウサギにおける脊髄虚
血に対する硬膜外冷却
カテーテルと中等度全
身低体温の相乗保護効
果
井上慎也(77相、心)
③ 盲腸結紮穿孔法による
腹膜炎に伴う腫瘍増殖
促進と、好中球エラス
ターゼ阻害薬によるそ
の抑制
熊谷厚志(81相、一)
④ 高脂血症治療薬ロバ
スタチンのヒト悪性
胸膜中飛細胞株ACC-
MESO-1に対する静細
胞的抗腫瘍効果
朝倉啓介(81、呼)
⑤ 音響放射圧イメージング
を用いた小児生体肝移植
後のグラフト繊維化評
価:パイロット研究
富田紘史(84、小)





26 年度からは、本賞の価値を高めるために、原則、1 編 1 年とすべく検討中。

(3) 基本問題検討委員会 (熊井副理事長)

刀林会委員会設置要綱(案)及び刀林会基本問題検討委員会規則(案)が、直前の理事会で承認されたことを報告し、提案された。拍手多数で承認、本日付で発効。

七、平成 26 年度学術集会開催支援募金(理事長) 次の 2 件が承認された。

(1) 第 69 回日本食道学会学術集会 (H27.7.23 ~ 24 @横浜)

会長 小澤壯治 (60、一、東海大外科)

総予算 4 千万円のうち、4 0 0 万円の支援依頼

(2) 第 70 回日本消化器外科学会総会 (H27.7.15 ~ 17 @浜松)

会長 今野弘之 (57、一、浜松医大第 2 外科)

総 予 算 約 2 億 1 千 3 5 0 万円のうち、3 0 0 万円の支援依頼

八、刀林会新入会(理事長) 国立病院機構埼玉病院長 院副院長・外科 原 彰男 (60、二、北川理事及び教室の推薦で、小西寿一郎君(平成 6 年高知医大卒、乳腺外科専攻)の刀林会入会が承認された。

九、平成 26 年度新入室者報告(教室主任) 91 回生 12 名及び同相当 9 名

○平成 25 年度決算・監査報告が、秋山武紀会計係(77、脳)と安藤暢敏監事(50、一)により行われ、拍手多数により承認された。

○平成 26 年度事業計画案及び予算案が、熊井副理事長および秋山会計係より上程され、拍手多数で原案どおり承認された。

○各委員会活動報告と委員紹介

(1) 刀林新聞編集委員会 (小澤壯治委員長、60; 和田則仁 二小委員長、委員長、74)

『刀林』101号・102号の刊行。

HP 開設に伴い、本委員会を広報委員会とし、その業務を、機関紙『刀林』と HP 運営の両者にすべく検討中。

HP 小委員会を立ち上げ、HP 準備中

編集委員: 別記(最終ページ)

HP 小委員会委員: 大塚崇 75、呼吸器外科、下島直樹 76、小児外科、吉武明弘 (77、心)、秋山武紀 (77、脳)、岡林剛史 (78、一)

(2) 刀林賞選考委員会(幕内博康委員長、49、二) 委員: 市来寄潔 (48、脳)、加藤木利行 (52、呼)、加勢田静 (53、呼)、渡邊昌彦 (58、一)、若林剛 (61、一)、吉田一成 (59、脳)、黒田達夫 (61、小)、北川雄光 (65、一)

(3) 基本問題検討委員会 (熊井浩一郎委員長、44、一) 委員: 山本修三 (38、一)、松本純夫 (52、一)、

四津良平 (52、心)、上野滋 (57、小) 吉田一成 (59、脳)、黒田達夫 (61、小)、矢崎貴仁 (64、脳)、渡辺真純 (64、呼)、北川雄光 (65、一)、志水秀行 (65、心)、石井良幸 (70、二)、日比泰造 (77、一)

○会員学術集会開催支援募金(集会日付順) 該当の 2 会員より挨拶

○刀林賞論文表彰 受賞者 5 名に、理事長より表彰状と、賞金 10 万円が渡された。

○平成 26 年度新入室者紹介 (神野浩光 専修医担当主任、66、一)

91 回生 12 名及び同相当 9 名が紹介され、各自、壇上にて挨拶。

総会の最後として、恒例の講演会が、廣瀬泰秀 元本会理事長・元塾評議員の司会の下で、「2017 年の塾医学部百年祭に臨んで―三田と四谷を繋ぐ輪と―」という演題で、比企能樹 本会評議員・慶應連合三田会会長・元三四会会長によって行われ、3 年後に迎える医学部百年祭に向かって、これまでの当外科学教室の歩んできた道、塾における医学部の立場等に関して、新病院建設募金が盛んに行われている現在、きわめて興味深い内容であった。詳細は、本紙別掲。

このうち、懇親会が開催された(本紙別掲)。

なお、本総会時に、総会懇親会参加者を増やす目的で、その開催方法についてのアンケート調査が行われた。結果は別掲。

平成 26 年刀林会総会講演より 「2017 年の塾医学部百年祭に臨んで―三田と四谷を繋ぐ輪と―」

2020 年オリンピックの東京開催が決まり、早くも慌しくなってきた。だが我がお膝元の信濃町は、2017 年医学部 100 年までオリンピックの 3 年前と迫っているのに、旧館の解体の音は聞こえるものの、どうも新しい病院を建設するのだという熱い機運が、三四会員の中に燃えて来ている様に思われる。

この新病院棟建設は、今の現在の不便を託っている

人々の為の立て直し事業では決してなく、2017 年以降に将来の慶應医学を学び背負う人々、つまり現在皆さんの励んでおられる医療の継承をする若者たちのため、また皆さんご家族はじめ身近な方々が最先端医療を受けるために、新病院棟建設計画が進められている訳である。

刀林会の会員の皆さまに措かれましては、何卒よりよい医療を目指そうとしている母校の為に、今一度経済的かつ精神的な支援を、あらためて伏してお願ひ申し上げます。

さて、むかし 1855 ー 58 年の間、福澤先生は塾の壁に掛かった、扶氏医戒を日々目にしながら蘭学を修められたが、このイエナの内科学教授が書いた、医療に携わる者への覚悟を迫る数行を読みながら、先生の胸中には慶應義塾を創られる時に医学教育も行うという構想が、既にしっかりと定まっていたと思われ。それはその後 1860

年代に 3 度の留学をされ、とりわけ最後のヨーロッパ訪問での日程で、必ず各都市で大きな病院を視察されたと記録があることも、推察できる。

殊にベルリンのシャリテ・ホスピタルでは、あの扶氏、すなわちフーフェランドがこの病院の院長であることに話が及んだ時、とりわけ深い感慨を得られ、決意を新たにされる一因となったのではなからうか。尤もそこで先生は、初めて手術に入られたものの、気分が悪くなられたというエピソードが残っている。

先生の医学部構想は、塾創立の 5 年後 1873 年に三田山上に慶應医学所を創立されたことに端を発する。この時は、門下生であった松村棟庵を招き、塾で英語による医学教育を為さんとされた。松村の人格も学力も申し分なく優れてはいたが、世の趨勢はドイツ医学教育が主流であったこと、経済的な面で医学所を継続することが困難になっ

懇親会参加者を増やす目的で、その開催方法についてのアンケート調査が行われた。結果は別掲。



2020 年オリンピックの東京開催が決まり、早くも慌しくなってきた。だが我がお膝元の信濃町は、2017 年医学部 100 年までオリンピックの 3 年前と迫っているのに、旧館の解体の音は聞こえるものの、どうも新しい病院を建設するのだという熱い機運が、三四会員の中に燃えて来ている様に思われる。

この新病院棟建設は、今の現在の不便を託っている



慶應連合三田会会長 比企 能樹 (37 回)

たため、先生は継統を諦められた。  
だが先生と弟・松山の師弟の信頼は厚く、後に松村は先生の健康管理に努め、1901年ご臨終の折も、側で看取って、恩に報いた。

その後1892年、北里柴三郎という新進気鋭の細菌学者が帰国した。北里はドイツのローベルト・コッホのもとで括目される研究を行い、本邦でも意気揚々と研究活動を行う筈であった。しかし、当時の医学界はそれを受け入れ育てるにはあまりに度量が狭く、北里は場を失って失意の内に居た。

その時、福澤先生はこの若い医学者に出遭い、経済面でも精神面でも手を差し伸べられ、やがては北里研究所を北里に用意された。そこで北里は伸び伸びと研究を進めることが出来、福澤先生に対する敬愛の念は深まり、先生もまたこの研究者を陰になり日向になつて支えられた。

ここで患者の栄養の為に飼育されていた牛のミルクが、先生の許にも日々届けられたのであるが、ある時その瓶に一点汚れを発見された先生は、北里を呼びつけて烈火の如く怒られた。衛生を守れない医療施設はあり得ないというご主旨であったが、飛ぶ鳥落とす北里に雷を落とされる先生は、医療と言うものの在り様を、もつともつと先のことまで考えられたに違いない。

その先生の思いはご逝去後に見事に結実し、ご恩に報いるべく北里柴三郎によってその15年後1916年に、慶應義塾医学部創立

の準備が開始された。北里を慕う研究者たちが次々と協力を申し出た。その結果、当時の日本医学会でキラ星の様な存在の医学者が初代教授とし名を連ねている。

細菌学・北島多一、解剖学・岡島郁夫、細菌学・志賀潔と秦佐八郎、薬理学・阿部勝馬、生理学・加藤元一、内科学・西野忠次郎と大森憲太、そして外科には茂木蔵之助、木村博、後に整形接骨科として独立した前田友助や前田和二郎等、枚挙に暇がない。

1917年に開校後、1920年には信濃町に新病院が開設し受診の患者が列をなした。外科学教室は新病院開院と同時に設立し、結束を語り、機関誌『刀林』の発行を行った。スカルペルを戴き、茂木教授の「木」と木村教授の「木」を合せて林の字をつけた「刀林会」は以来、教室同窓会の歴史を刻んでいる。因みに三四回は翌年の1923年に北里医学部長の臨席の下発会式を行っている。

刀林会が如何様な教室で在らんとしたか、1933年版『刀林』誌上に、忠臣蔵になぞらえた外科医局の唄が、下記のように発表されている。



慶應病院外科医局

人数は同じ四十七  
上は茂木の蔵之助  
下は何の某と

一〇有余年の歴史もて  
医局一同睦まじく  
日本の為や人の為  
諸々 病打ち払う  
わが慶應の外科医局

さて、医学部設立当時、三田で学んでいた時に不屈な医学生が、自分たちは天下の名医学者たちから試験によって選抜された、超エリートであるからと、Mのバッジを学生服の襟に留めた。しかし言わずもがな、塾においては福澤先生の「慶應義塾はひとつ、社中」は一体である。三田の他学部の人々が怒るのは当然で、三田と四谷の争いは、史実に残る医学部の汚点となつた。

私が、慶應連合三田会34万人、861団体の会長に就任以来のコンセプトは、「心をひとつにする和をもつて、各々の輪をまとめ、大きな輪を作る」ことにある。三田も四谷も垣根を越えて、輪をもつて結束し、「慶應義塾はひとつ、社中」は一体を具現していることと思う。医学部も当然ながら母校慶應義塾の one of them であり、他学部と共に母校の繁栄に努力したいと考える次第である。

# 刀林会総会懇親会報告



慶應義塾大学医学部  
外科 (心臓血管)

吉武 明弘 (77回)

刀林会総会につづき、例年通りホテル・オークラの「アスコットホール」にて会員懇親会が盛大に催されました。

まず始めに2015年7月15日、17日に第70回消化器外科学会を主催される今野弘之君 (57回) からご挨拶をいただきました。続いて、本年6月6日、7日に第28回日本小児救急医学学会術集会を主催された上野滋君 (57回) から学会の報告、9月に第50回日本移植学会総会を主催された島津元秀君 (53回) から学会についてお話いただきました。

「若き血」を全員で斉唱し大いに盛り上がりました。最後に、吉田一成教室主任よりご挨拶をいただき、楽しい懇親会は閉会となりました。



## 刀林会総会・懇親会に関するアンケート調査報告

去る6月に開催された平成26年度総会において、参加者増加を目的として、回答用紙を参加者に手渡し、退室時回収、卒回のみ記入・記名なしで行われた。

結果を示す。  
回答率・51/146 (35%)  
会場・従来どおりが過半数  
総会講演への希望・とくになし  
参加記念品・不要が過半数  
懇親会余興・不要24、ビンゴ11、じゃんけん5  
その他・全員集合写真

この結果をもとに、次回に備えたいと考えています。  
ご協力に深謝いたします。  
理事長

# 国立病院機構神奈川病院 院長就任



根本 悦夫 (56回相当)

平成26年4月、独立行政法人国立病院機構神奈川病院の13代目の院長に就任致しました。私は、呼吸器外科を専攻し、国立療養所晴嵐荘病院、南横浜病院、川崎市立井田病院と結核病棟を有する病院を回つてきました。当院に赴任して5年になります。このたび、

ならずも院長職を拝命することとなり、ひとえに刀林会会員諸兄のご支援の賜物と深謝しております。

神奈川病院は、昭和14年4月に傷痍軍人神奈川療養所として創立され、最盛期には800床を持つ結核療養所でした。戦後、国立神奈川療養所となり、重症心身障害児(重心)の収容を開始し、平成16年には独立行政法人国立病院機構神奈川病院と組織変更されました。現在は公務員の身分ですが、平成27年4月には公務員の身分を離れます。

平成26年4月、独立行政法人国立病院機構神奈川病院の13代目の院長に就任致しました。私は、呼吸器外科を専攻し、国立療養所晴嵐荘病院、南横浜病院、川崎市立井田病院と結核病棟を有する病院を回つてきました。当院に赴任して5年になります。このたび、

ならずも院長職を拝命することとなり、ひとえに刀林会会員諸兄のご支援の賜物と深謝しております。

神奈川病院は、昭和14年4月に傷痍軍人神奈川療養所として創立され、最盛期には800床を持つ結核療養所でした。戦後、国立神奈川療養所となり、重症心身障害児(重心)の収容を開始し、平成16年には独立行政法人国立病院機構神奈川病院と組織変更されました。現在は公務員の身分ですが、平成27年4月には公務員の身分を離れます。

# さいたま市立病院 院長就任



窪地 淳 (58回)

私は、留学より帰国後昭和63年11月から平成20年9月までの間、国立病院機構東京医療センターに勤務し、平成20年10月から副院長として、平成26年4月から院長(保健福祉局医務監兼務)としてさいたま市立病院に勤務しております。

歴代の院長として刀林会員からは勝俣慶三先生(6代目)、戸倉康之先生(7

代目)、遠藤昌夫先生(8代目)の諸先輩方が活躍されており、私は10代目の院長として就任致しました。

全国自治体病院協議会に、廻ること6年間連続して経営収支の黒字が維持され、健全経営を維持しつつ医療機能の更なる充実を図るために必要な投資を行うこと、老朽化・狹隘化した施設の整備を検討することが謳われ、全部適用・独

この様に内に外に大々的な変革を強いられる当院において、この施設の役割を明確に打ち出し、あり方検討委員会の答申を受けての病院の経営・運営を行うことは、私の使命であると考えております。また、医療過疎と言われて久しいこの地域において、地域完結型の医療への最終的な受け皿として自治体病院の使命が果たせる施設整備と体制の確立そして当然ながら医療者の教育研修の修練の場としての施設の充実にも努めていく所存です。

これからの時代を担うことのできる施設となるよう高い志を持って、これからの更に越えなければならぬ数々の壁に立ち向かっていく所存ですので、刀林会の皆様の引き続き温かいご支援、ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

# 国立病院機構神奈川病院 院長退任



加勢田 静 (53回)

平成26年3月に国立病院機構神奈川病院院長を退任しました。

私は慶應義塾大学医学部附属病院、東京都立駒込病院、済生会神奈川県病院を経て、独立行政法人国立病院機構に移行し国立療養所神奈川病院から国立病院機構神奈川病院に名称が変更

された平成16年に副院長として赴任しました。

当院の外科は結核の外科療法に始まり、赤倉一郎先生を指導者とするチームに引き継がれ、全国に先駆けて全身麻酔下の肺切除を行い呼吸器外科のメッカになりました。その後、石渡弘一先生の在任中に慶應義塾

大学から派遣していただいた北條一宇先生、納賀克彦先生、松本純夫先生、勝又貴夫先生などに消化器外科の基礎を築いていただき、私の赴任時は櫻井嘉彦先生、徳原秀典先生の2人と慶應義塾大学、東海大学からのローテーションの若手医師を加えたメンバーによって毎年業績を伸ばしていただきました。その後、ポストチーフ出張で清水裕智先生に来ていただき、さらに症例数を増やしていただきましたが、平成21年に医師1名が体調を崩し退職したことをきっかけに症例数が激減し、残念ながら慶應の消化器外科が引き上げとなりました。

この結果、消化器外科の手術例が激減し消化器外科の維持も危うくなっています。東海大学には引き続き医師を派遣していただくようお願いしていますが、現在のところ明確な返事は頂いておらず、場合によっては消化器科が消滅するのではないかと危惧しています。

これからも「診療科特異的教育中核病院」として母校との関係を保ちつつ、地域医療に貢献できる病院として発展したいと考えていますので、刀林会の諸先生には是非ともよろしくお願い申し上げます。

# 慶應義塾大学医学部 外科（呼吸器）教授就任



浅村 尚生 (62回)

2014年10月1日付けで、外科学（呼吸器）教授を拝命致しました62回生の浅村尚生でございます。不慣れな点、行き届かぬ点多々あるとは思いますが、何卒宜しくお願い致します。

私は、1983年に塾医学部を卒業し、外科学教室に入局、慶應病院、伊勢慶応病院（植田正昭先生）、社会保険埼玉中央病院（椎名栄一先生）において初期研修を受けました。その後、専修医の中断措置を頂いて、国立がんセンター中央病院の外科レジデント（呼吸器外科専攻）となり末舩恵一先生、成毛韶夫先生の指導の下で肺病学の基礎を学び、結局、今回教授として帰室するまで28年間（1986-2014）を国立がんセンターで過ごすことになりました。私自身、まさか国がんを離れるという展開を予想だにしておりませんでしたので（末舩先生にはレジデントとしてはじめてお目にかかった頃、国がんに

骨を埋める覚悟でしっかりとやるようにと言われておりました）、教授就任以来の毎日が、何か架空の出来事のような気さえして未だ落ち着きませんが、自分の目標と使命をしっかりと見据え、堅実な教室運営に邁進したいと思っております。

当面は精力を傾注して参りたいと思っております。さらに、2017年には、世界肺癌学会（IASLC）の開催する World Conference on Lung Cancer (WCLC) と日本肺癌学会（JLCO）と日本肺癌学会の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

# 慶應義塾大学医学部 外科（心臓血管）教授就任



志水 秀行 (65回)

平成26年7月1日付けで外科（心臓血管）の教授を拝命いたしました。このたびの就任にあたり多大なるご支援を賜りました刀林会の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

慶應心臓血管外科研究室の誕生は1951年に遡ります。翌年には動脈管閉存症手術、数年後には開心術を成功させ、黎明期から今日に至るまで先天性心疾患、後天性心疾患、大動脈疾患の三分野をバランスよく発展させ、常に学会をリードしてきた伝統ある研究室です。

私は、仲間が力を合わせて最高のチーム医療を実践できることこそが、慶應らしい医療の形であると確信しています。同じ方向を向いた仲間が協力しあって自分たちのスキルや発信力を向上させ、後進が輝かしい将来像を描けるように道筋を示し、彼らをしっかりと育成することで、外科学教室の一員として自分たちの役割を果たして行きたいと考えています。

これからも皆様のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

**5-HT<sub>3</sub> 受容体拮抗型吐剤** 創薬、処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること） **薬価基準収載**

**アロキシ 静注 0.75mg** Aloxi. i.v. injection 0.75mg

**アロキシ 点滴静注用 0.75mg** Aloxi. i.v. infusion bag 0.75mg

パロセトロン塩酸塩注剤 製造販売元 大鵬薬品工業株式会社 〒101-8444 東京都千代田区神田1-27 TEL.0120-20-4527 FAX.03-3293-2451 http://www.taiho.co.jp/ 提携先 HELSINN スイス 2013年7月作成

血漿分画製剤（液状・静注用免疫グロブリン製剤）

**献血 ウェノグロブリン IH 5%** 0.5g/10mL・1g/20mL・2.5g/50mL  
Venoglobulin IH 5% i.v. 0.5g/10mL・1g/20mL・2.5g/50mL・5g/100mL・10g/200mL

血漿分画製剤（血液凝固阻防止剤）

**ナイアート 静注用 500単位** Neuart i.v. 500 units・1500 units

※効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元 一般社団法人 日本血液製剤機構 東京都区港区浜松町2-4-1

販売 田辺三菱製薬株式会社 大阪市中央区北浜2-6-13

VGX-NAT (A5 1/2) 2013年8月作成

日本血液製剤機構 は日本赤十字社の血漿分画事業部門と株式会社ベネシスが統合し設立した一般社団法人です

# 防衛医科大学 外科学講座 (心臓・血管、呼吸器) 教授就任



田口 眞一 (63回)

平成26年4月1日付けで防衛医科大学外科学講座の教授職を拝命しました。偏に慶應義塾大学外科学教室、刀林会の諸先生方の全面的なご支援の賜物と存じます。特に四津良平外科(心臓血管)前教授には、私の立候補に当たり多大なるお力添えをいただいた事、厚く御礼申し上げます。

防衛医科大学は設立40周年を迎えたところで、当初より慶應義塾大学出身の教官が多く在籍している緑の深い大学校であります。防衛省直轄であり、独法化してない国立大学校です。着任した外科学講座(心臓・血管、呼吸器)は防衛医大内では外科学2と称され、旧第二外科です。第二外科の頃は消化器外科も含んで刀林会員の在籍も多く、先生方にも馴染みのある教室名と思います。初代教授は尾形利郎先生、二代目が田中 勸先生、三代目が前原正明先生で、皆慶應義塾の出身者です。私は四

の教官は心臓・血管が慶應義塾の出身者、呼吸器が防衛医大の出身者で構成されています。外科学は数年前から慶應義塾同様に大講座制となっており、上部・下部消化管の外科学1は防衛医大出身者が教授、肝胆膵を中心とした外科学3は東大出身者が教授です。外科学1と3の教官の多くは防衛医大の出身者です。私は昭和59年慶應義塾大卒業と同時に故井上 正教授の大学院生となりました。臨床の基本を教わると共に早い時期から補助循環の研究にも携わる事ができました。川田志明教授の元にチーフレジデントを終了し、仏国のパリ第六大学臨床留学で手術を学ぶ機会もいただきました。その後、義塾の関連施設の多くで臨床を学び、平成19年からは四津良平教授のご高配で川崎市立川崎病院心臓血管外科部長を務めました。以後、慶應義塾大学専任講師を務めました。現在の志水秀行教授とは学生時代から現在

に至るまで親しくさせていただいております。防衛医科大学病院は通常の地域医療に携わっています。埼玉県所沢市にあり、患者さんの多くは市内や周辺地域から来院されています。今後、成人の心臓手術と胸部・腹部大動脈手術、末梢血管手術には満遍なく対処できる体制の充実化を図りたいと思っています。また、私自身の経験や興味とも重なるのですが、心臓腫瘍と血管腫瘍は重視して力を入れたいと考えています。医師である幹部自衛官となるべき者の養成という設立目的を意識した教育、臨床に即した研究も同時に進めていきます。

このたび、平成26年6月6日(金)と7日(土)の2日間、パシフィコ横浜(アネックスホール)にて、第28回日本小児救急医学会学術集会をお世話させていただきました。様々な小児救急に関わる場面における連携をイメージし、「つながる・つなげる救急診療―初期対応から在宅医療まで―」をテーマとした小児虫垂炎や胃腸炎のガイドライン作りといった幅広いテーマについて、講演やシンポジウム、口演、ポスターなどで活発な議論が交わされました。また、シミュレータを用いた参加型のプログラムや小児脳死判定セミナーといった企画では、多くの方に実践的なトレーニングの機会を持つていただくことができました。参加者の皆様にとって、今後の診療に生かせる実り多いものであり、学会にとっても将来の礎となるような学術集会であつたらと切に願っております。

刀林会諸兄の皆様には、本学術集会の準備と運営に、あたりに、多大なご支援をいただきました。同窓の皆様からのご支援は、大きな励ましと喜びであり、慶應義塾という母校の伝統と温かいつながりを改めて実感いたしました。本誌上をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、このような機会を得られましたことは誠に貴重なものと感ずる次第です。

末筆ではありますが、皆様の益々のご活躍とご健勝をこころより祈念申し上げますとともに、今後も刀林会が同窓の絆を強める組織として発展することを願ひ、微力ながらその一助となることのできるよう努めてゆきたいと存じます。



# 学会を終えて 第28回日本小児救急医学会学術集会



東海大学医学部  
外科学系  
小児外科学教授  
上野 滋 (57回)



# 第27回日本内視鏡外科学会総会と 第2回腹腔鏡下肝切除国際コンセンサス会議

## を終えて



岩手医科大学  
医学部外科教授

若林 剛 (61回)

心な討議が重ねられ、最終日には投票によりガイドラインの推奨度を決めました。会議はスムーズで大変有意義なものとなり、来年の春までにはそれらの内容

刀林会の皆様の温かい応援により、内視鏡外科学会総会 (JSES27) と国際コンセンサス会議 (ICCLIR) を盛岡で無事に行うことが出来ました。心より御礼申し上げます。JSES27は30、024題という過去最多の演題応募をいただき、10月2日から4日までの3日間で6,387名の方に盛岡にいらしていただきました。総会を誘致した目的の1つであった沿岸復興支援への経済効果は、お陰さまで非常に大きかったと思います。メインテーマを「動作制限を克服して、拡大視効果を楽しむ」とし、対談「リーダーシップとは?」、「大上受賞者記念講演」、「ビデオ鼎談2...エネルギーデバイス語る」などの特別企画からパネルやシンポ、そしてランチョンセミナーなど、この領域に携わる刀林会の先生方には特別発言、司会、発表などご快諾頂き、わざわざ盛岡まで足をお運び頂いたことにこの場を借りて深謝申

上げます。また、若い刀林会の先生方にも多数の演題応募を頂き、誠にありがとうございました。今年から3日間となった産学・医工連携セッションを含めて、各セッションでの参加者集計からみた延べ聴衆数は36,133名となり、学会参加者は1人平均6.7セッションに参加したことになります。これだけ多数の方が熱心に会場を回られ、結果としてJSES27がこの領域の発展に少しでも繋がったなら、会長として望外の喜びです。

一方、ICCLIRは10月4日から6日までの3日間、盛岡グランドホテルで開催されました。世界18カ国から43名の招待パネリストを集め、国内からも含め240名を超える参加者を得ました。会議の目的は腹腔鏡下肝切除の価値、安全性、質を開腹肝切除と比較し、短期成績や長期成績に関するステートメントと技術的なガイドラインを発表することでした。非常に熱



刀林会肝胆膵メンバーと会場前で

# 第50回日本移植学会総会を終えて



第50回日本移植学会総会会長  
東京医科大学八王子医療センター  
消化器外科・移植外科特任教授

島津 一元秀 (53回)

第50回日本移植学会総会は東京・新宿の京王プラザホテルで9月10、12日の3日間に渡って開催されました。テーマは「和と輪で創る移植医療」次の半世紀に向けて」とし、移植医療の発展のためには医療者、患者のみならず社会全体の harmony と link が不可欠であるという思いを込めました。日本移植学会の会員数は3800名であり、当初1000名前後の参加者を予定していました。第50回という節目の総会ということもあり、参加者は1600名を超え過去最多を記録しました。初日は開会式につづいて50周年記念式典が行われ、高原史郎日本移植学会理事長の挨拶で始まり、臓器移植法成立に尽力された中山太郎元外務大臣が急遽欠席されたためメッセージを会長が代読し、厚生労働大臣からのご祝辞を健康局長新村和哉氏が代読され、参議院議員足立信也氏、日本臓器移植ネットワーク理事長野本亀

久雄氏よりご祝辞を頂きました。海外からもロイ・カーン先生、トーマス・スターツル先生のVTRメッセージが流れ、厳粛な雰囲気の中で、記念式典が終了しました。プログラムは、会長講演、理事長講演、特別講演4題、海外からの招請講演4題に加え、主題演題202題、一般演題363題と過去最大数の演題を頂きました。会長講演は「肝移植・基礎研究から臨床へ、そして移植文化へ」と題して、恩師北島政樹先生の御司会で講演させていただきました。内容は、慶應での肝移植研究のルーツであり藤田保健衛生大学時代の恩師でもある故青木春夫先生(33回生)の業績、移植班のメンバーが行った基礎研究、慶應での肝移植の立ち上げ、ABO不適合肝移植に対する門脈注入療法の開発、東京医大での肝移植の再開、日本の移植医療の問題点、今後の展望・期待などでした。特別講演では岡野栄之生理学教授、新見正



本総会を記念して集合した歴代移植班のスタッフ

ジアの肝移植」ではアジアを代表する4名の肝移植外科医より各国の肝移植の現状と課題について詳細にご講演頂きました。また、50周年企画として、日本における黎明期の移植を各臓器移植のバイオニアである先生方に振り返って頂き、さらに、次の半世紀に向けて、再生医療等のトップランナーである研究者から夢のある話を聞かせて頂き総会の締めと致しました。最後に、ご援助頂いた刀林会会員の皆様、ご協力頂いた外科肝胆膵・移植班の皆様、ならびに本総会の準備・実施のために奔走してくれた河地茂行事務局長をはじめ事務局のスタッフに厚く御礼を申し上げます。

# 第41回日本膝切研究会を

## 振り返って



東京歯科大学市川総合病院  
副院長・外科教授  
松井 淳一 (58回)

この度、第41回日本膝切研究会を当番会長として、本年8月22日、23日、東京・水道橋東京ドームホテルにおいて開催させていただきました。

膝手術は近年、手術手技や周術期管理の向上により術後合併症が軽減し長期生存例が増加しておりますが、この前進にはわが国膝臓外科、中でも日本膝切研究会が大きな役割を果たして来ましたが、しかしこれまで、膝切除術後の残膝にフォーカスが当てられることは少なく、私自身が膝頭十二指腸切除術後の残膝の内視鏡観察、追跡をライフワークとして取り組んできた経緯もあり、今回の主題に「膝切除術後残膝の追跡と機能評価」を取り上げました。

主題に関連して、各施設における残膝の追跡への取り組みと膝切除術後の残膝病変切除例の実態を明らかにすることを目的として事前にアンケート調査を行いました。なお、今回が倫理審査手続きを踏んで実

施した本研究会最初のアンケート調査となりました。アンケートには全国91施設から回答が寄せられ、2009〜13年の5年間膝切除15777例、残膝病変切除212例を集計することができました。大変興味深い結果が幾つも明らかになりましたが、その結果をホームページ上に公開しておりますのでご覧いただきたいと思っております。



(左から) 瀧川穰実行副委員長、松井淳一当番会長、北郷実実行委員長

題の中から「進行膝癌に対する科学・放射線治療を併用した外科的戦略と成績」をシンポジウムに組み、先進的施設の戦略、成績が発表され討論の中で今後の課題も明らかにされました。また、特別企画「日本発信の膝切データ」として、①NCDデータから膝頭十二指腸切除術のリスクファク

ター、②膝癌補助療法の臨床試験データの二つを設けることができました。その他、口演、ポスター発表などでも旺盛活発な議論が行われ、会期二日間では足りない大変有意義な研究会になったのではないかと喜んでおります。

第19回日本脳腫瘍の外科学会を、2014年9月12、13日の両日に、無事開催させていただきました。ご支援を賜りました刀林会の皆様方には、心より御礼申し上げます。「伝承と革新」、「症例から学ぶ」を学会のテーマとし、シンポジウム10セッション、メイントピックス4セッションを始め、5名の国内外からの招待演者の方々に講演をいただきました。また演題数も200題を超え、2日間400名余りの方々に参加をいただき、主催者として、大変満足のできる学会となりました。慶應義塾大学脳神経外科にとりまして、脳腫瘍は、全手術件数の約半数を占める、主要な疾患でございます。本学会を主催させていただきましたことは、大変な名誉であると同時に、重い責任も感じておりましたが、参加者から「高い評価をいただき、胸をなでおろしているところでございます。」「術前評価によるリスク予測と合併症回避の工夫」と題します、

シンポジウムを企画しましたところ、多数の演題が集まり、このテーマで、5セッションを組むことになりました。脳腫瘍の外科治療をいかに安全、かつ、確実に行うために、個々の症例を事前に検討し、手術戦略を立てていくかということを議論いたしました。また、極めて悪性度が高く、予後不良の疾患である、神経膠芽腫の長期生存例の検討をメインテーマのひとつとして取り上げました。神経膠芽腫という難治性の腫瘍でも、長期生存例があること、そして、いつの日にか、脳神経外科医が神経膠芽腫を克服する日がくることを夢見た企画でした。学会2日目には、「Surgical Anatomy & Science」に基づいた脳腫瘍の手術戦略をテーマに、6名のエキスパートの先生方に講師をお願いして、教育セミナーを行いました。9月14日(日)には、「脳腫瘍を知る」をテーマに、市民公開講座を開催いたしました。脳腫瘍患者を身近にもつ一般の

# 第19回日本脳腫瘍の

## 外科学会を終えて



慶應義塾大学医学部  
外科(脳神経)教授  
吉田 一成 (59回)

方々のお声をお聞かせいただき、身につまされる思い



学会を終えて、医局員一同集合写真

で、私も医療従事者の責任を再確認いたしました。学術集会、教育セミナー、市民公開講座の企画、運営にあたり、医局員一同、誠心誠意、尽力して参りましたが、私どもの非常に多くのことを学んだ学会でもありました。更なる、脳腫瘍の外科治療の発展を目指しまして、私どもにも活力を入れていただきました。謹んで、ご支援いただきました先生方に、ご報告並びに御礼申し上げます。



# 第70回日本消化器外科学会総会の開催にあたって



浜松医科大学外科学  
第2講座教授(附属病院長)  
今野 弘之(57回)

第70回日本消化器外科学会総会を2015年7月15日(水)から17日(金)までの3日間、浜松で開催させて頂くこととなりました。消化器外科学会総会は勿論ですが、数千人の医師が集まる学術集会は静岡県で初めてのことです。本講座歴代教授であられる阪口名誉教授、故馬場名誉教授、中村現学長の消化器外科分野における多大な御業績が強力な後ろ盾となったことは言うまでもありません。刀林会では第34回総会掛川暉夫先生(33回)、第37回総会 故青木春夫先生(33回)、第45回総会 故三富利夫先生(34回)、第50回総会 比企能樹先生(37回)、第54回総会 船曳孝彦先生(40回)、第61回総会 幕内博康先生(49回)が主宰されています。

浜松は多くの世界的な企業が発祥地であり、新しいものづくりやシステム構築にチャレンジする心意気が息づく土地です。このような特色を持つ浜松の地から、世界へ向け本邦の優れた消化器外科医療を発信し、さらに未来への発展と深化に繋がるような、実り多い総会を目指しています。

第70回総会は、消化器外科学会としても今後の学会の在り方を示す、幾つかの新たな試みが実施される文字通り節目の総会となります。第一に国際化です。消化器外科学会は今後、世界、特にアジア、米国の連携に重点を置き、国際的な学術集会を目指していきますが、これに基づき既に各国の消化器外科学会とのInternational Sessionが68回総会から英語により実施されています。本総会では、この方向性をさらに加速させ、上級演題の約50%と一般演題の一部が英語での発表・討論となります。さらに海外から多くの若手外科医に参加して頂けるよ

# 刀林賞を受賞して



済生会宇都宮病院  
井上 慎也(77回相当)

この度は伝統ある刀林賞をいただき誠に光栄に存じます。まずは研究の機会を与えてくださった四津良平名誉教授、実験・研究・論文執筆のご指導をしてくださった森厚夫先生、志水秀行教授に心から御礼申し上げます。また、動物実験の援助やアドバイスをくださった埼玉県立循環器・呼吸器病センターのスタッフの方々に感謝申し上げます。

(胸腹部) 大動脈瘤の手術の際に問題となる「対麻痺」は、悲惨な経過をたどる深刻な合併症であり、大動脈ステントが驚くべき速さで世界に普及し、この合併症は解決されるかも期待されましたが、うはなりません。大動脈瘤の治療法が現在のところ唯一、ステントを含めた手術治療であることを考えると、対麻痺の発生率をゼロに近づけることが、われわれ外科医に課せられた重要な課題であると思われ

ます。当教室の脊髄保護に関する研究の歴史は古く、多くの先輩方が数々の業績を残しておられますが、われわれは薬剤ではなく物理的に

# 刀林賞を受賞して



慶應義塾大学医学部  
外科(呼吸器)  
朝倉 啓介(81回)

このたびは刀林賞をいただき誠に光栄に存じます。賞をいただきましたのは2011年にJournal of Surgical Research誌に発表したCytostatic effects of Lovastatin on ACC-MESO-1 cellsという論文

で、高脂血症治療薬スタチンのヒト悪性胸膜中皮腫細胞株に対する抗腫瘍効果とその作用機序を示したものです。研究は医化学教室の足立健先生(現・防衛医科大学校循環器内科教授)の研究室に大学院生として出向して行わせていただきました。

高脂血症治療薬であるスタチンですが、in vitroで抗腫瘍効果を示すことが古くから知られていました。スタチンはコレステロール合成系であるメバロン酸回路の阻害薬で、メバロン酸回路はコレステロール以外にも生体にとって重要ないくつかの脂質を合成しています。そして、その中にRasスーパーファミリ

り、体温および脊髄温を15℃〜19℃まで下げて臓器を保護することがあります。これは凝固障害や不整脈、免疫系の抑制、呼吸障害等の危険を孕むこととなります。この硬膜外冷却カテーテルによる持続的脊髄冷却が臨床応用できれば、これらの危険を回避しつつ、ほぼ完全な脊髄保護効果を得ることができるようになると期待できます。

最後に、大学卒の身でありながらこのような伝統ある慶應外科の賞をいただき、大変励みになりました。地道な実験や執筆がこのよう形での目を見て、本当に報われました。感謝の念を日々の推進力に変えて、少しでも恩返しができるよう精進して参ります。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

# 刀林賞を受賞して



がん研有明病院  
消化器外科  
熊谷 厚志 (81回相当)

この度は伝統ある刀林賞をいただき誠に光栄に存じます。ご指導いただきました北川雄光教授、才川義朗先生、竹内裕也先生、須田康一先生、実験をサポートしてくれた福田和正先生、高橋恵さんに厚く御礼申し上げます。関連病院での研修を終えて帰室した平成17

年の春に、才川義朗先生から「炎症とがん」の研究テーマのお話をいただいたことが昨日のことのように思い出されます。以来、さまざまな試行錯誤を経て「炎症ががんの増殖を促進し、またその炎症を抑制することでがんの増殖も抑制される」という仮説を

証明するに足る実験結果を得ることができました。その実験結果が諸先生方のお力添えにより科学的にましまり、昨年ようやく論文掲載に至りました。縫合不全などの術後合併症ががん患者の予後を不良にする可能性については近年さまざまな臓器のがん

で臨床から報告されています。今回受賞した論文「The Neutrophil Elastase Inhibitor Sivelestat Suppresses Accelerated Gastrointestinal Tumor Growth via Peritonitis A Her Cecal Ligation and Puncture (Anticancer Res. 2013 Sep;33(9):3653-9)」は、それを盲腸結紮穿孔法による腹膜炎モデルマウスを用いて実験室レベルで再現し、さらに腹膜炎に伴う全身性炎症反応を好中球エラスターゼ阻害剤 (Sivelestat) で抑制することにより腫瘍の増殖を抑制できる可能性を示したものです。外科医にとって興味深いテーマを扱ったこの研究で刀林賞をいただくことができたこと

を大変嬉しく思っております。近年のがん治療においては体腔鏡下手術、センチネルリンパ節生検といった低侵襲手術が発展、普及しており、大腸癌の領域では、手術侵襲が少ない腹腔鏡手術の方が開腹よりも予後が良好であったという報告もあります。「炎症とがん」というテーマは「術後合併症とがん再発」のみならず、「手術侵襲とがん再発」にも通じるものであります。今回の研究では炎症ががんの増殖を促進する詳細なメカニズムを明らかにするには至りませんでした。この研究結果を基盤として一歩踏み込んだ実験を行い、新たな知見が得られることを願います。

# 刀林賞を受賞して



社会福祉法人恩賜財団済生会支部  
神奈川県済生会横浜市東部病院  
脳神経外科  
峯 裕 (75回)

この度は伝統ある刀林賞を受賞させて頂き、非常に光栄に存じます。誠に有り難うございました。私は大

学にて神経移植・再生研究、特にパーキンソン病への神経幹細胞移植に従事し、永寿総合病院のチーフ出張後に幹細胞・再生医学研究の中心の一つであるスウェーデン・ルンド大学に留学しました。パーキンソン病患者に対する世界初の神経移植治療を行い、現在は臨床医の傍ら脳血管障害等に対する幹細胞治療の研究を行う Olie Lindvall 教授の下で脳梗塞に対する再生医療の研究に携わりました。今回受賞

しました。神経移植治療は神経回路を呈しますが、現在の治療は損傷組織の修復ではなく悪化防止に過ぎません。真の修復・症状改善には神経回路網再構築が必要であり、そのドナーとして幹細胞が注目されています。脳内には神経幹細胞が存在し、脳梗塞後に増殖・分化して梗塞部位に新しい神経細胞を供給する「内在性神経新生」を生じますが、生存率が低く臨床応用は困難なため、「幹細胞移植」も損傷神経回路網再構築に有用と考えられています。本研究では脳梗塞モデル動物へのヒト胎児由来神経幹細胞移植により、①内在性神経新生の促進と成熟神経細胞の供給増加、②虚血による炎症の抑制、③移植幹細胞の成熟神経細胞へ分化と宿主とのシナプス形成、④神経機能回復を証明し、内在性幹細胞賦活と幹細胞移植のコンビネーションが、神経回路網再構築を目的とする脳血管障害の治療法となり得る事を示す事が出来ました。

# 刀林賞を受賞して



さいたま市立病院  
小児外科  
富田 紘史 (84回)

この度は伝統ある刀林賞を頂き、身に余る光栄に存じます。今回賞を頂いた論文は「Acoustic Radiation Force Impulse Imaging for Assessing Graft Fibrosis After Pediatric Living Donor Liver Transplantation: A Pilot Study」の表題で

院で行った臨床研究の結果をまとめたものです。私は外科学教室(小児外科)に帰室後、他に治療法のない肝疾患患児の救命ばかりではなく、QOLも大きく改善させる小児生体部分肝移植に大きく魅せられました。しかしながら、術後元気に普通の子とほぼ変わらな

でいる場合があります。今回の研究をご指導下さった星野健准教授は移植後のグラフト線維化に早くから注目し、症状なく肝機能良好な患者さんにも定期的な(プロトコル)肝生検を行って免疫抑制療法のコントロールを行っておりました。このような環境の中、「硬さを測るエコー」という新しい技術が最近臨床の現場に導入されてきている

ことを知り、少しでも侵襲的な肝生検の代わりができないか、と考えて肝生検を行う患児の肝硬度を測る臨床研究を開始しました。1年間で65名の患者さんにご協力頂き、ARFIという硬さを測るエコーは小児生体部分肝移植後のグラフト線維化をある程度予測可能である、という結果を出すことができました。

この臨床研究は比較的単純なものです。研究実行に当たっては、小児外科臨床と同様に様々な部署の先生方およびコメディカルの方々のご協力が必要でした。黒田達夫教授、北川雄光教授をはじめ私も所属していた外科移植班の皆様には患者さんのリクルートやデータ収集などにご協力頂き、消化器内科・放射線診断科・病理学の皆様に超音

波検査やグラフト線維化の評価を行って頂きました。共著者となって頂いたのは19名の先生方ですが、他にもご尽力頂いた方々が何人もいらつしやいました。この場をお借りしまして、深く御礼申し上げます。この4月から私はさいたま市立病院小児外科に勤務しており、肝移植の現場は離れておりますが、肝移植を必要としている肝疾患患児の診療は行っておりま

す。このような患児に20年後、30年後の未来を保証できるような、引き続き臨床研究を通じて少しでも力になつていきたいと思っております。今後ともご指導、鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひ致します。

最後に、さいたま市立病院の機会を与えて下さった河瀬 斌名菅教授、吉田一成教授、生理学教室岡野栄之教授、そして研究を御指導頂きましたルンド大学 Olie Lindvall 教授にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。また留学を支えてくれた家族に感謝致します。

2007年に「Liver Transplantation」誌に掲載されたもので、慶應義塾大学病

院で行った臨床研究の結果をまとめたものです。私は外科学教室(小児外科)に帰室後、他に治療法のない肝疾患患児の救命ばかりではなく、QOLも大きく改善させる小児生体部分肝移植に大きく魅せられました。しかしながら、術後元気に普通の子とほぼ変わらな

でいる場合があります。今回の研究をご指導下さった星野健准教授は移植後のグラフト線維化に早くから注目し、症状なく肝機能良好な患者さんにも定期的な(プロトコル)肝生検を行って免疫抑制療法のコントロールを行っておりました。このような環境の中、「硬さを測るエコー」という新しい技術が最近臨床の現場に導入されてきている

ことを知り、少しでも侵襲的な肝生検の代わりができないか、と考えて肝生検を行う患児の肝硬度を測る臨床研究を開始しました。1年間で65名の患者さんにご協力頂き、ARFIという硬さを測るエコーは小児生体部分肝移植後のグラフト線維化をある程度予測可能である、という結果を出すことができました。

この臨床研究は比較的単純なものです。研究実行に当たっては、小児外科臨床と同様に様々な部署の先生方およびコメディカルの方々のご協力が必要でした。黒田達夫教授、北川雄光教授をはじめ私も所属していた外科移植班の皆様には患者さんのリクルートやデータ収集などにご協力頂き、消化器内科・放射線診断科・病理学の皆様に超音

波検査やグラフト線維化の評価を行って頂きました。共著者となって頂いたのは19名の先生方ですが、他にもご尽力頂いた方々が何人もいらつしやいました。この場をお借りしまして、深く御礼申し上げます。この4月から私はさいたま市立病院小児外科に勤務しており、肝移植の現場は離れておりますが、肝移植を必要としている肝疾患患児の診療は行っておりま

す。このような患児に20年後、30年後の未来を保証できるような、引き続き臨床研究を通じて少しでも力になつていきたいと思っております。今後ともご指導、鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひ致します。

最後に、さいたま市立病院の機会を与えて下さった河瀬 斌名菅教授、吉田一成教授、生理学教室岡野栄之教授、そして研究を御指導頂きましたルンド大学 Olie Lindvall 教授にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。また留学を支えてくれた家族に感謝致します。

# 第45回恙無会 (つつがないかい、

## 旧食研外科研究室同窓会) 報告

昨年同様、文字どおりの五月晴れであった5月16日(土)午後、銀座BRBで、丸山幹事の司会の下、24名(前年比マイナス3)を集めて開催された。当日、歩行者天国の銀座通りは多くの人でにぎわっていたが、

三 比企能樹君(37回) 夫妻から、塾への「アイシユタイン博士直筆文書」の寄贈  
同夫人の祖父君三宅速 九大外科名誉教授が遺された同文書が、アイシユタインのノーベル賞受賞後に世界初の講演が塾で行われたこと、また塾図書館が国内有数の文書保管能力のあることから、塾へ寄贈された。詳細は、エッセイストである同夫人が書かれた『三田評論 1176号、2014年3月』の「大戦を越えたアイシユタイン文書」に譲りたい。

に、PPTを用いたりしてのスピーチに花が咲き、あつという間に時が経ってしまつた。来年の5月第3土曜日午後、同所での再会を約して散会となった。最後に、この約1年間、

逝去した恙無会会員は、幸い、皆無であったことをお伝えします。  
丸山圭一、吉野肇 一 記

ライオンピアホールの4丁目寄り、6丁目の一角は大々的な再開発事業で、見慣れた松坂屋の建物はないどころか更地、大歯抜け状態となつており、異様ともいえる光景であった。

今回の恙無会での注目点は、以下の3点であった。  
一 山本修三君(38回) 叙勲(2009年秋、旭日中綬賞)

このお祝いは、本来、もつと前に行うべきであったが、都合により、次項の船曳君のそれとともにお祝いすることとなった。彼の長年にわたる救急医療、日本病院会会長等での社会貢献が高く評価されたものである。

いつものように、参加者全員が個々に、

二 船曳孝彦君(40回) 叙勲(今2014年春、瑞宝中授賞)  
藤田保健衛生大学学長などとして、多年、同大学の発展と地域医療等に対する多大な尽力に対するの表彰である。

いつもものように、参加者全員が個々に、

いつもものように、参加者全員が個々に、

いつもものように、参加者全員が個々に、



前列左より、丸山圭一、武石夫人、椎名栄一、大槻道夫、前田外喜男、関根迪弐、田中武彦、湯浅鏡介。中列、同、鈴木卓二、鈴木夫人、比企夫人、横山卓也、比企能樹、山本修三、船曳孝彦、船曳夫人。後列、同、柴崎(旧姓染谷、研究室秘書)、古谷健二、本橋(旧姓田村、胃鏡室)、吉野肇一、武石令息、秋里和夫、榎本耕治、大槻夫人 以上

### 病院紹介

## 帝京大学病院



帝京大学医学部  
外科教授  
川村 雅文 (61回)



向かって右手前が外来棟(その上が屋上庭園)、その奥が18階建ての病棟、左が大学等で、中央の歩道を挟んで1階両側にお店が並んでいます。左手の芝生が前庭、右端に石神井川の桜並木がちょっと写っています。

帝京大学医学部附属病院は池袋から埼京線で二駅目(5分)、城北地区最大級の商店街を有する下町の十条駅から徒歩10分ほどのところにあります。一帯はまさに下町の住宅街ですが、大

帝京大学医学部附属病院の位置する一角は石神井川の緑歩道に面し周囲は帝京中学・高校、東京家政中・高・大学、板橋区立中学などの学校が集中し都内にしては稀有な緑豊かな学園地区が形成されています。

18階建ての病院(病床数1154床)に向かい合うようにして医学部、薬学部、医療技術学部の医療系3学部・大学院で総勢5000名を収容する10階建ての大学棟があり、両者に併設されるレストラン、コンビニ、銀行、クリーニング店、書店、ファーストフード店などを含めるとここに一つの街が形成されている観があります。

本院は昭和46年に開設され、その後規模を徐々に拡大しながら平成21年5月には現在の新病院が開院しました。特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院、東京都災害拠点病院、救急救命センター、総合周産期母子医療センター等の承認指定を受け東京都城北地区ばかりでなく埼玉県南部も診療圏に収めた地域の中核病院として診療を行っています。

帝京大学医学部外科学講座における刀林会員の歴史は昭和61年に高見博先生(名誉教授49回)が着任され、その後平成4年に小平進先生(42回)が当時の第1外科教授として赴任されたことに始まります。平成12年からは第1、第2外科が統合され、上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科、乳腺外科、内分泌外科、血管外科、呼吸器外科を有する外科学講座となつていきます。統合後は高見博先生、池田正先生が主任教授として講座を運営されてきました。

現有勢力としては池田正主任教授、副院長、がんセンター長(53回)、川村雅文、呼吸器外科担当(61回)、新見正則准教授(64回)、松谷哲行講師(74回相当)、高橋祐介助教(82回)、中山敬史(84回相当)、関朋子助教(85回)が乳腺外科、呼吸器外科、血管外科を担当しています。

また救急部では外科学教室OBの安心院康彦准教授(64回相当)、石川秀樹講師(71回相当)が活躍しています。

地域の急性期医療を担う中核病院として当院も地域連携に注力しており、地元医師会を巻き込んだ様々な研究会等を盛んに展開しています。その結果外科でも手術件数が年々増加してきています。こういった営業活動は努力が数字になつて帰ってくることを恥ずかしながらこの年になってから知りました。教育、研究ももちろんですが、今後もういった地道な地位立脚型の営業活動を積極的に展開していく所存ですので、刀林会・三四会の諸先生方のご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

留学報告

米国・スタンフォード大学  
血管外科留学を終えて



慶應義塾大学医学部  
外科 (一般・消化器)  
藤村 直樹 (82回)

私は2012年8月1日から2年間、米国カリフォルニア州にあるスタンフォード大学血管外科に留学して参りました。スタンフォード大学はサンフランシスコから約60km南東で、いわゆるシリコンバレーの中心にあります。サンフランシスコは比較的涼しく、霧が多い印象がありますが、こちらは内陸にあるため、より温暖で、雨季以外は雨が降ることもほとんどなく、カリフォルニアのイメージにあるようななどこまでも続く青い空に、強烈な太陽が日々降り注いでいます。大学のキャンパスも広大で、東京ドーム14個分(3310ヘクタール)あり、連続した敷地としては世界最大のキャンパスです。その広大なキャンパスの中に、たくさんの国際色豊かな学生達が勉学に励んでおり、医学以外の分野からも刺激を受けることができます。

脈瘤の病態を解明すると同時に、腹部大動脈瘤の薬物的治療法の開発を目指し、日々探究しております。また研究だけでなく、臨床見学として、週に1回の臨床カンファレンスや、時間があれば手術にも積極的に見学に行きました。さすがにスタンフォード大学だけあって、臨床カンファレンスでは毎週必ず2〜3例は珍しい症例報告があり、手術見学でも、まだ日本では未承認のデバイスや、通常の治療では困難な症例が多数あり、大変勉強になりました。またそれ以上に、ほぼ毎月のように全米から訪れる著名な血管外科医達との交流は、刺激的であり、かけがえのないものでした。

また仕事面だけでなく、週末を中心に家族と過ごす時間も大幅に増え、私生活も楽しい時間を過ごさせて頂きました。スタンフォード周囲の環境も抜群ですが、スタンフォードの近郊にはサンフランシスコだけでなく、サンノゼ、ナパバレ、モントレーなどがありますし、車で少し足を延ばせば、ヨセミテ公園やヤホ湖などの国立公園、そし

て飛行機なら1時間もいけば、ロサンゼルスや、サンディエゴ、ラスベガス、グランドキャニオンなど観光名所が目白押しでした。2年のスタンフォード大学での留学を終えた後、臨床留学として、ニューヨーク州にあるアルバーニーメデイカルセンター血管外科とフランスにあるストラスブール大学血管外科に2ヶ月ほど滞在し、10月1日からは慶應義塾大学病院にて勤務を開始しております。残念ながら、現状では、海外での血管外科領域における日本人の存在は極めて低いと感じましたが、留学中に学んだ血管外科領域における最先端の基礎研究、臨床研究、そして手術技術を活かし、世界標準の医療を行い、日本の血管外科といえば慶應と言われるように、頑張つてまいりたいと思います。

末筆になりますが、留学に際してご高配、ご指導を頂きました北川雄光教授、尾原秀明講師、外科学教室の諸先輩方ならびに国際医の藤村匠君(86回)が研究奨励賞を受賞しました。感謝を申し上げます。

帰室報告



慶應義塾大学医学部  
外科 (脳神経)  
高橋 里史 (81回)

本年の4月に外科学教室(脳神経)に帰室致しました。81回の高橋里史です。2011年に大学院を修了した後、短期出張を挟んでドイツ学術交流会より援助を頂き、ベルリンのCharité大学病院Berlinへ留学、帰国後は群馬県伊勢崎市の脳血管研究所美原記念病院

へ出向してまいりました。大学院では脳腫瘍の研究をさせて頂いておりました。2011年に大学院を修了した後、短期出張を挟んでドイツ学術交流会より援助を頂き、ベルリンのCharité大学病院Berlinへ留学、帰国後は群馬県伊勢崎市の脳血管研究所美原記念病院

へ出向してまいりました。大学院では脳腫瘍の研究をさせて頂いておりました。2011年に大学院を修了した後、短期出張を挟んでドイツ学術交流会より援助を頂き、ベルリンのCharité大学病院Berlinへ留学、帰国後は群馬県伊勢崎市の脳血管研究所美原記念病院

が、元々血管の外科に興味があり、脳血管障害の外科を専門にしたいとの気持ちから、留学先ではWilms動脈閉塞症(もやもや病)や動脈硬化性の閉塞性脳血管障害に対する血行再

建術、動脈瘤のクリップング術等の手術技術を中心に学んで参りました。大学では脳血管障害を中心とした臨床と基礎研究を担当させて頂きます。私は群馬県の出身で、幼少期には父の仕事の関係でまだ西ドイツであった頃のドイツで暮らしていた時期

藤村匠君(86回)日本小腸移植研究会  
研究奨励賞受賞報告



慶應義塾大学医学部  
外科 (小児) 教授  
黒田 達夫 (61回)

平成26年3月15日に栃木県自治医科大学で開催された第26回日本小腸移植研究会において小児外科学教室の藤村匠君(86回)が研究奨励賞を受賞しました。

論の場として、昭和63年に移植外科、小児外科の医師らを中心に発足した研究会であります。今回はテーマとして「小腸移植におけるBreakthrough」と題し、基礎研究についてスポットが当てられました。

全に対する神経幹細胞を用いた細胞移植治療に関する研究です。現在、腸管運動不全症例を救命するために辿り着く最終治療手段は臓器移植である小腸移植と考えられています。同君は当院での小腸移植の主治医として免疫抑制や術後管

理の困難さを経験し、小腸移植以外にも同病態の患者を救う治療法を模索する必要があると考え、腸管神経の起源である神経堤に注目し、低浸襲かつ免疫抑制に頼らない治療開発の一手として、神経堤細胞をドナーとした細胞移植を薬剤性の腸管運動不全モデルマウスに移植し、細胞の生着や腸管運動に関する機能的な評価を行い、その治療の有用性を示す研究成果の一部を報告しました。以前から移植した神経堤細胞が神経に分化することや機能改善を示す報告はありましたが、

蛍光と発光の両方で認識でき、細胞の生着・増加に応じて発光度に変化する蛍光発光融合タンパクを用いて移植細胞を標識し、移植細胞の生着後の状況までその

生着の経時的観察の報告はありませんでした。今後への発展性が高く評価されました。同君を含む当教室研究グループは生理学教室の岡野研究室スタッフの指導の元、共同で幹細胞移植治療の開発を目指しております。今回その研究成果を発表しました。本研究では腸管不全の最終治療手段は臓器移植という発想に新たな治療戦略をもたらしたと、この研究の発展性が評価され、受賞に至ったと思われま。藤村君はこの成果を活かし、今後、腸管運動不全で悩む小児とその家族を救う新規治療方法の臨床応用を目指したいと抱負を語りました。彼の益々の活躍に期待したいと思います。

エッセー

気が付けば救急車の中



足利赤十字病院 第一外科部長 高橋孝行 (60回)

前回は留学中にボストンマラソンに参加した記事を書かせていただきました。今回は『トライアスロンについて』というタイトルで、原稿依頼を頂きましたが、残念ながらトライアスロンは1992年以来挑戦しておりません。代わりに9年前50歳を迎える直前に起きた、『痛くて貴重な体験』をご報告致します。帰国後しばらくは地元の



は一向に上がらず4kmでギブアップ。体に異変を感じたのはそれから間もなくの事でした。帰り道、全身が火照り出し掌は赤く腫れ足先にも痒みを感じました。周りの景色を見るとボクシヤリして焦点が合わず、息苦しくなってきました。「ヤバイ!」と思った時には全身の力が抜け、顔面と眼鏡に傷を負いながら前のめりに倒れ、そのまま意識を失ってしまったのです。意識が戻ったのは救急車の中。「呼吸音が弱いなあ」という会話が聞こえました。勤務先の病院に搬送された時の最高血圧は80、酸素飽和度90、酔ってもいないのに呂律が回りません。CTでは脳に異常所見はないものの、両側の胸水貯留。2リットルの点滴をされるも、その晩は1滴もオシッコが出ません。また息をする度に前胸部に激しい痛みを感じました。

翌朝「先生おたふく風邪?」と担当の看護師に言われ、鏡を見ると顔はパンパン、まぶたも腫上がり超不細工、リストバンドは肉

地域便り

宮崎たより



特定医療法人耕和会 迫田病院 大腸肛門センター室長 迫田 哲平 (80回)

宮崎県の三四会員は現在8名でそのうち刀林会員は2名です。先輩方とは年2、3回の懇親会の機会を頂いて交流を重ねております。当病院には3名の三四会員が勤務しており40歳前後の医師が中心となつて構成されております。2011年4月、前任地の栃木県の佐野厚生総合病院では東日本大震災の余波も経験しての慌ただしい帰郷となりました。宮崎市の中心を流れる大淀川の南岸に位置し非常に見晴らしが良く市街地にも数分で行ける環境の中で働いております。ただ河口付近ですの

津波には弱



で職場環境を良くしていただける実感を持って、楽しい毎日となっております。診療においては、大腸肛門を中心とした診療を看板のひとつとして、掲げ専門分野の研鑽を積みつつも、一方で地域のニーズに答えるための総合的な臨床能力が必要とされるなかで日々勉強が続いており、まだまだ発展途上でこちらも楽しく、悩ましく取り組んでおります。また地域のコミュニティーや異業種の方々との連携も非常に重要と認識し、徐々に企画実践しているところです。とはいっても課題も多く、何よりも人脈もないため非常に心細い思いをしております。今後も皆様のご支援・ご助力賜りたく存じます。

近況報告

78 回生



慶應義塾大学医学部 外科 (心臓血管)

岡本 一真

昼も夜も全力で駆け抜けたフレッシュマン時代から早15年。あの頃のような無茶振りができる外科フレッシュマンがいなくなつた慶應は少し寂しいですが、当時先輩方から注入された刀林スピリッツの片鱗でも後輩に伝承すべく、時折気合を注入しております。見かけは随分大人になりましたが、自転車通勤を続けたり、病棟の宴会に積極的に参加したりと、いつまでも少年の心を忘れないよう心がけています。いつでも臨戦体制をと、コスト高をおして慶應の近所に居を構えたものの、案外緊急出動の機会が少ないのが悩みです。心臓血管外科医らしくもつと緊急の出番が増えるといいのですが。

ベルギー、イタリア、タイでの修行を経て、とりあえずは現職に落ち着いた感があります。常にチャレンジャーやフロンティアの精神を忘れず、何か面白いことが出来ないかネタ探しの毎日です。幸い、心臓血管外科の領域は新規技術、リサーチ、話題、人物など全てが刺激に満ちた世界で、楽しいです。

平塚市民病院 血管外科

秋好 沢林



一般消化器外科でのチーフレジデント終了後、さいたま市立病院、BWH/MGH/HMSを経て、現在は平塚市民病院に勤務しております。平塚市民病院では血管外科を担当し、閉塞性動脈硬化症や腹部大動脈瘤や下肢静脈瘤といった末梢血管疾患を扱っています。末梢血管疾患はこの5

年間に大きく変化し、従来型手術だけでなく血管内治療(ステントグラフトやPTAなど)やそれらを組み合わせたハイブリッド治療も行われるようになっていきます。年間300例を超える末梢血管手術にほぼ一人で対応するのは一苦労ですが、優秀な放射線科医をはじめとした同僚やレジデントに囲まれて楽しくやっています。

平塚市民病院 脳神経外科

田伏 将尚



脳神経外科チーフレジデントを終了し、平成20年度より平塚市民病院脳神経外科に勤務しております。これまで河瀬 斌名名誉教授、吉田 一成教授、戸田 正博准教授の御指導の下、サポートしていただいた先生の多大なるお力添えにより博士課程における博士号をいただくことができました。最近関連施設の諸先

生の御指導により脳神経血管内治療専門医を取得することができたため、血管内アプローチにおける脳卒中医療を積極的に展開しつつ、開頭術・血管内手術の「二刀流」をめざして患者さんにより良い医療を提案できたらと考えております。家族は妻、11歳の長男、9歳の長女とともに楽しく元気に暮らしております。家族の存在が自分を支えてくれる唯一であり、いつも感謝しています。既に自分1人の体ではないので、平塚に赴任してからほぼ毎日の早朝ランニングを継続しています。走れない日があると精神的な充足感が得られないままになりました。今後とも「刀林会」の一員としてご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

外科学教室

新入室者紹介

91 回生



さいたま市立病院

林 応典

出身高校：聖光学院  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味・バレーボール部



日本鋼管病院

赤松 雄太

出身高校：開成学園高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味・バレーボール部

遅めではありますが、人並みに家庭をもち、娘(2歳)の英才教育に精を出しております。現在のところ娘は期待大です。こちらも刺激に満ちた広い世界に羽ばたいてもらいたいです。

吉田 一成教授、藤田保健衛生大学医学部脳神経外科廣瀬雄一教授のお力添えにより、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校脳神経外科 Russell O. Peiper 教授のもとに留学させて頂き早3年半が過ぎました。異なる文化に時には戸惑い、時には圧倒されながらも家族(妻、娘)3人で楽しく充実した日々を過ごしております。来春には帰国予定です。今後ともよろしくお願ひいたします。

佐野厚生総合病院 外科・乳腺外科

和田 真弘



2005年4月に一般消化器外科のチーフレジデントを終了した後、川崎市立川崎病院で3年間勤務させて頂きまして、石井誠一郎先生(当時外科部長)を始めとする多数の先輩スタッフから御指導を受けながら、消化器外科ならびに乳腺外科のたくさんの手術を経験させて頂きました。

2008年5月には北川教授の御高配により、念願でありました佐野厚生総合病院(現任地)に勤務させて頂いております。当院は私の生まれ育つた地元病院であり、その地域の乳がん診療の均てん化の一助になるべく、乳腺外科医として日々診療に励んでおります。

社会医療法人社団 高野病院

高野 正太



平成17年にチーフレジデントを終了後、私事にて熊本に帰りました。その際は諸先生方に御迷惑をお掛けして申し訳ございませんでした。その後は大腸肛門病の専門である高野病院で勤務を開始。平成21年から23年まで米国フロリダ州の Cleveland Clinic

Florida, Department of Colorectal Surgery に留学し、機能性大腸肛門疾患を中心に研究を行いました。特に Orlando に所在する Disney Worldへは年間パスを購入し家族で足繁く通い、ヌードマウスではなくミッキーマウス達と楽しい時間を過ごしました。帰郷後は高野病院での勤務を再開し、肛門科および大腸肛門機能科を専門として日々努力しております。

UCSF 留学中 脳神経外科

大場 茂生



2011年4月より慶應義塾大学医学部脳神経外科

2005年4月に一般消化器外科のチーフレジデントを終了した後、川崎市立川崎病院で3年間勤務させて頂きまして、石井誠一郎先生(当時外科部長)を始めとする多数の先輩スタッフから御指導を受けながら、消化器外科ならびに乳腺外科のたくさんの手術を経験させて頂きました。

2008年5月には北川教授の御高配により、念願でありました佐野厚生総合病院(現任地)に勤務させて頂いております。当院は私の生まれ育つた地元病院であり、その地域の乳がん診療の均てん化の一助になるべく、乳腺外科医として日々診療に励んでおります。

平成17年にチーフレジデントを終了後、私事にて熊本に帰りました。その際は諸先生方に御迷惑をお掛けして申し訳ございませんでした。その後は大腸肛門病の専門である高野病院で勤務を開始。平成21年から23年まで米国フロリダ州の Cleveland Clinic

Florida, Department of Colorectal Surgery に留学し、機能性大腸肛門疾患を中心に研究を行いました。特に Orlando に所在する Disney Worldへは年間パスを購入し家族で足繁く通い、ヌードマウスではなくミッキーマウス達と楽しい時間を過ごしました。帰郷後は高野病院での勤務を再開し、肛門科および大腸肛門機能科を専門として日々努力しております。



川崎市立川崎病院

岩井貴洋



この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂きました91回生の林応典と申します。東京歯科大学市川総合病院で初期臨床研修を行い、現在はさいたま市立病院で研修させて頂いております。毎日刺激的で非常に勉強になる日々を過ごしております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂きました岩井貴洋と申します。川崎市立川崎病院にて御指導頂いております。精一杯努力致しますので、御指導、御鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



国立病院機構  
東京医療センター  
中小路 絢子

出身高校：慶應義塾湘南藤沢高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味…競走部



練馬総合病院  
竹内 優志

出身高校：慶應義塾高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味…硬式庭球部



東京都済生会中央病院  
石原 恵理子

出身高校：東京学芸大学附属高校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味…空手部



公立福生病院  
遠藤 泰

出身高校：駒場東邦高校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味…ラグビー部



東京医科大学  
八王子医療センター  
消化器外科・移植外科  
若林 大雅

出身高校：駒場東邦中等学校  
出身大学：日本医科大学  
クラブ：趣味…アイスホッケー部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂きました91回生の石原恵理子と申します。卒業2年間はN.T.T.東日本関東病院で初期臨床研修を行いました。

現在は、東京都済生会中央病院にて温かいご指導を賜り、充実した日々を送らせて頂いております。これからも精進していく所存ですので、何卒ご指導ご鞭撻のほどを宜しくお願い申し上げます。

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂きました91回生の遠藤泰と申します。現在は公立福生病院外科で卒業3年目の専修医として研修させて頂いておられます。まだまだ未熟者ではございますが、外科医として成長できるように、持ち前の体力を活かして一生懸命に取り組み日々努力してまいりますので、どうぞご指導ご鞭撻のほど宜しく御願い申し上げます。

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂きました91回生の若林大雅と申します。母校を卒業後、母校消化器内科に入局し1年間勤務した後、4月から東京医科大学八王子医療センターにて、先生方の厚いご指導のもと日々研鑽を積んでおります。少し回り道をしましたが、1日も早く一人前の外科医になれるよう、精一杯努力して参りますので、今後とも永くご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



東京歯科大学  
市川総合病院  
外科  
石田 洋樹

出身高校：渋谷教育学園幕張高等学校



多摩丘陵病院  
栗山 翔司

出身高校：学習院高等学校  
出身大学：昭和大学  
クラブ：趣味…陸上短距離



東京都済生会中央病院  
池端 昭慶

出身高校：福井県立武生高校  
出身大学：聖マリアンナ医科大学  
クラブ：趣味…硬式野球部



川崎市立井田病院  
竹村 裕介

出身高校：金沢大学附属高校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：趣味…硬式庭球部



伊勢原協同病院  
森田 覚

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂きました91回生の森田覚と申します。

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂きました栗山翔司と申します。済生会宇都宮病院で初期臨床研修を行い、現在は多摩丘陵病院で外科専修医として研修させて頂いておられます。諸先輩方の温かい御指導のもと、多くの経験を積み日々充実した研修を送らせて頂いております。今後とも御指導ご鞭撻の程よろしく御願い致します。

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂きました91回生の栗山翔司と申します。現在は東京都済生会中央病院に勤務させて頂いておられます。



浜松赤十字病院  
山高 謙

出身高校：頼明館高等学校  
出身大学：山梨大学  
クラブ：趣味…バスケットボール部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂きました91回生の池端昭慶と申します。現在は東京都済生会中央病院に勤務させて頂いておられます。

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂きました91回生の竹村裕介と申します。現在川崎市立井田病院で研修をさせて頂いておられます。外科の興味深さと、それ以上に難しさを日々感じているところであります。何に対しても真摯な医師を目指し努力して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく御願いいたします。

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂きました91回生の山高謙と申します。卒業2年間は立川にあります国立病院機構・災害医療センターにて初期研修を行いました。現在は浜松赤十字病院にて外科出張させて頂いておられます。

多忙ながら諸先生方の指導の下、外科医として充実した日々を過ごさせて頂いております。今後ともご指導のほどよろしく御願いいたします。





静岡市立清水病院

柳澤 薫

出身高校：慶應義塾高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
クラブ：榎水泳部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させていただくことになりました。91 回生の柳澤薫と申します。卒業後 2 年間はさいたま市立病院にて初期研修を行いました。現在は静岡市立清水病院にて諸先輩方にご指導を賜りながら充実した日々を送っております。未熟者ではございますが、精一杯精進致しますので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



北里研究所病院 外科

岡 英俊

出身高校：浜松学芸高校  
出身大学：産業医科大学  
クラブ：榎バスケットボール部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂きました。91 回生相当の岡英俊と申します。現在は北里研究所病院で諸先輩方から熱心なご指導を頂いております。患者さんから信頼される外科医になれるよう努力致しますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

新入室者・その他

足利赤十字病院

小杉 健三

永寿総合病院

椎木 春美

済生会横浜市東部病院

西本 真章

慶應病院外来外科担当表

初診外来 (午前)

一般・消化器外科

北川 雄光  
尾原 秀明  
板野 浩理  
神野 浩光  
長谷川 博俊  
竹内 裕也

小児外科

黒田 達夫  
黒田 達夫  
星野 健夫  
星野 健夫  
藤野 明浩  
藤野 明浩

心臓血管外科

吉武 明弘  
岡本 一真  
饗庭 秀行  
志水 秀彦  
工藤 樹貴  
蜂谷 貴

呼吸器外科

大塚 尚生  
浅村 尚生  
浅村 尚生  
河野 光智  
渡辺 真純  
神山 育男  
浅村 尚生  
朝倉 啓介

脳神経外科

大平 貴之  
佐々木 光  
三輪 史  
高橋 里史  
戸田 正博  
吉田 一成  
秋山 武紀  
堀口 崇  
三輪 史  
秋山 武紀  
堀口 崇

免疫療法 (第 3)

戸田 正博  
高橋 麻衣子  
林 浩光  
神野 浩光  
加藤 源俊  
山田 洋平  
岡本 一真  
古川 俊治

脳腫瘍補助療法 II

佐々木 光  
高橋 麻衣子  
尾原 秀明  
松原 健太郎

特殊外来 (午前)

川久保 博文  
高橋 常浩  
坂田 道生  
松原 健太郎  
阿部 雄太  
長谷川 博俊  
高橋 麻衣子  
林 浩光

肝臓・移植

八木 洋  
渡辺 真純  
星野 健夫  
山田 洋平  
尾原 秀明  
松原 健太郎

肝臓・移植

日比 泰造  
岡林 剛史  
鶴田 雅士  
篠田 昌宏  
竹内 裕也  
長崎 和仁

特殊外来 (午後)

北郷 実  
竹内 裕也  
和田 則仁  
大塚 尚生  
和 則仁  
高橋 常浩  
中村 理恵子

内視鏡 (第 1・3)

古川 俊治  
岡本 一真  
山田 洋平  
加藤 源俊  
神野 浩光  
林 浩光  
高橋 麻衣子

小児 (一般再診・小児移植)

戸田 正博  
高橋 麻衣子  
佐々木 光  
高橋 麻衣子  
尾原 秀明  
松原 健太郎

木乳腺

高橋 麻衣子  
尾原 秀明  
松原 健太郎

訃報

井上 孟君 (29 回)  
平成 26 年 5 月 15 日

石 邦輔 君 (43 回)  
平成 26 年 8 月 25 日

増子 昭 君 (31 回)  
平成 26 年 9 月 14 日

山本 八洲夫 君 (20 回)  
平成 26 年 9 月 22 日

脳・定位放射線 (第 1)  
小林 正人  
鶴田 雅士  
岡林 剛史  
大平 貴之  
堀口 崇  
秋山 武紀  
尾原 秀明

編集後記

平成 26 年も終わりに近づき、刀林新聞の発行も間近となった。本年より新たに編集委員となり、刀林会の豊かな人材に改めて驚いている。恒例の同窓会報告とともに学内外、諸学会あるいは海外で活躍されている諸先輩、同輩そして後輩諸君の近況を讀者の皆様にお届けできることは嬉しい。ご多忙にもかかわらず執筆をご快諾いただいた筆者の方々に感謝申し上げます。振り返れば、豪雨、噴火、地震と日本列島が激しい自然災害に見舞われた 1 年であった。刀林会の益々の発展とともに 27 年が明るい年となることを祈り編集後記としたい。(Y. I.)

編集委員

委員長 小澤 壯治  
委員 佐藤 周三  
磯部 陽  
小澤 壯治  
川村 雅文  
古梶 清和  
藤野 明浩  
大塚 崇  
下島 直樹  
秋山 武紀  
吉武 明弘  
鶴田 雅士

刀林賞について

本年度より刀林賞応募の諸規定が変更となりました。詳細は外科学教室刀林賞ホームページもしくは、メールにて刀林会事務局へお問い合わせください。

tourin-h@a6.keio.jp

本年度応募締め切りは 2015 年 1 月末日です。

astellas logo and Prograf advertisement. Prograf is an immunosuppressant (tacrolimus water and object formulation). It is used for organ transplantation. The advertisement includes the product name, manufacturer (Asstellas Pharmaceutical Co., Ltd.), and contact information.

Chugai Pharmaceutical advertisement for Zerod 300 (Cisplatin). Zerod 300 is an anti-cancer drug used for various types of cancer. The advertisement includes the product name, manufacturer (Chugai Pharmaceutical Co., Ltd.), and contact information.